

タイトル：一本杉

一本杉（英語では1本の杉と説明）は、女人道で、生きている目印として旅人の役に立つよう、550年以上前に、この場所に植えられました。杉は非常に高く、真っ直ぐに育つため、遠くからでも簡単に見つけることができます。特に明治時代(1868-1912)より前は、この地域においてたくさんの自生樹林が木材として伐採され、現在ほど高く、密集して育っていませんでした。数世紀の間、旅人や巡礼者は、合流場所や、子継峠と転軸山の間を森林に覆われた斜面の道案内をする目印として、一本杉を利用していました。

目印となる杉と同じように、高野山の至るところで杉の木立を目にする機会が多くあります。三本杉として知られる、3本の杉の古木が、一本杉から5分程歩いたところがあり、黒河峠への近道の行き止まりを示しています。他に、苗木の寄進を受け、奥之院の参道に現在に至っている大杉林が並んだり、高野山の玄関口である大門の近くに立っています。